

令和6年度 第2回 言語聴覚療法学科教育課程編成委員会 議事録

学校法人 敬心学園

日本福祉教育専門学校

日時：令和7年2月25日（火）13：30～15：00

場所：オンライン会議（Zoom 使用）

記録：西原 新吾

参加者氏名（敬称略）

委員 市川 勝（北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科言語聴覚療法専攻講師、
一般社団法人神奈川県言語聴覚士会 副会長）

委員 畠田 将行（江東リハビリテーション病院 リハビリテーション科 科長、
同 医療連携室 室長、公益社団法人東京都理学療法士協会 代議員）

教員 浜田 智哉（日本福祉教育専門学校 言語聴覚療法学科）

職員 丸山 航也（日本福祉教育専門学校 教務課）

職員 西原 新吾（日本福祉教育専門学校 教務課）

議事

1. 会の進行及び背景の説明（浜田委員）
2. 養成教育現場での合理的配慮（市川委員）
3. 就職・実習現場での合理的配慮（畠田委員）
4. 当科での取り組み事例（浜田委員）
5. 総合質疑応答
6. 事務連絡

1. 合理的配慮導入の背景と目的（浜田委員）

合理的配慮をテーマに選定した経緯について説明した。新型コロナ対策、メンタルヘルス、CMS 評価など、これまでの取り組みとの継続性を示すとともに、令和8年度に予定されているカリキュラム改編や入学層の多様化、障害を理由とする差別の解消を推進する法律（以下、障害者差別解消法と記す。）の施行などにより、合理的配慮の重要性が一層高まっていること

を確認した。

2. 養成教育現場での合理的配慮（市川委員）

障害者権利条約の批准から現在に至るまでの法的変遷について説明があり、特に障害者差別解消法の改正と合理的配慮の義務化について詳しく述べられた。さらに、教育機関としての対応について、以下の4つの観点から合理的配慮について言及があった。

- ①合理的配慮を申請するための手続きの標準化
- ②セルフアドボカシーを高める支援
- ③階層的な環境整備
- ④教育の目的・内容・評価の「本質」の明確化

3. 就職・実習現場での合理的配慮（畠田委員）

実習現場における配慮事例の紹介があり、多様なケースに対応するための対策や、職場環境における配慮の方法について説明された。

4. 当科での取り組み事例（浜田委員）

令和6年度より導入された障害学生支援室の規定とその運用状況について紹介があり、具体的な事例として、学習支援が必要な学生への配慮措置と今後の課題が報告された。

5. 総合質疑応答

学校として、学生が最大限の能力を発揮できる環境を整えることが重要であり、今後の実習やカリキュラムなどの改善に努めることが確認された。

6. 事務連絡

令和7年度の教育課程編成委員会の開催は、概ね令和7年の夏と令和8年の春に開催する予定であることが、確認された。